

## 第 6 期男女共同参画審議会「第 1 回政策部会」開催概要について

- 1 日 時 平成 27 年 7 月 30 日（木）10:00～12:00
- 2 議 事 第 3 次ひょうご男女共同参画プラン（仮称）の骨子案について
- 3 政策部会委員  
上林憲雄委員（部会長）、井野瀬久美恵委員、奥見はじめ委員、野々山久也委員、  
開本浩矢委員

## 4 開催内容

## (1) 事務局からの説明

## 「第 3 次ひょうご男女共同参画プラン（仮称）」の骨子案について

- ・ 計画改定の趣旨
- ・ 現行計画の主な成果・課題及びこの間の社会情勢の変化
- ・ 計画のめざす社会、計画策定にあたっての考え方
- ・ 計画骨子（構成、項目）
- ・ 改定スケジュール
- ・ 現行計画及び国計画案との柱立て比較

## (2) 委員発言要旨（主なもの）

## ① 計画策定に当たっての考え方に関すること

- ・ 男女共同参画が目標になってはいけない。男女共同社会の形成は、「住みよい社会」とするための手段であると認識することが必要。
- ・ 男女共同参画という語が時代遅れの印象。「ダイバーシティ」で良いのでは。
- ・ 兵庫県独自のものを出し、兵庫型として地方から発信することが必要。
- ・ 女性支援に偏っている印象。高齢者や若者も含め、すべての男女を網羅するイメージを膨らませた方が良い。
- ・ 近年の家族の多様化は、想像の域を超えており、これらのニーズを把握し、支援につなげていけるような計画にすることが必要。
- ・ 世の中の意識というのは一気に変わっていくことはない。意識変革を後押しするのは制度であるため、エンパワメントの制度化が必要。

## ② 「柱立て」の項目、構成に関すること

- ・ 「女性のチャレンジ支援」から「女性の活躍推進」に変わったが、「女性の活躍推進」といえば、起業する女性、企業において昇進していく女性、というイメージが強い。たとえば専業主婦はどう位置づけていくのか。すべての女性の活躍を支援するという位置づけが必要。
- ・ グローバル化を進めている兵庫県としては、「国際化」に関し何らかの言及が必要であり、国の計画案を参照する必要がある。
- ・ 防災の項目については、中身を書き込む必要がある。
- ・ 性的マイノリティは「ユニバーサル社会づくり」の項目ではなく、「家庭・地域づくり」の項目の中の方がふさわしい。

### ③ 数値目標に関すること

- ・数値的な目標だけでなく、定性的な目標設定を検討すべき。
- ・数値目標は、その背景にある状況を理解しないと、数字のみを追求することが意味を成さないこともあることに注意。例えば、自治会長の女性比率は「地域における女性の参画の度合い」を示す指標としては適切でなく、別の指標を検討した方が良い。
- ・数値目標の設定にあたっては、「仕事と生活センター」など、ある程度取組みが軌道に乗ったものは、「相談件数」などではなく、より具体的な目標数値を設定すべき。